

製作マタイチロウ・ヤマモト / レナード・シュレーダー
監督シェルドン・レナン
脚本レナード・シュレーダー / チエコ・シュレーダー

VIOLENCE USA

アメリカン・バイオレンス

撮影ウィリー・キュラント ロバート・チャールトン
トム・ハーウィッツ / ビーター・スモークラー
編集リー・パーシー
カラー作品 東宝東和提供 / アメリカ映画

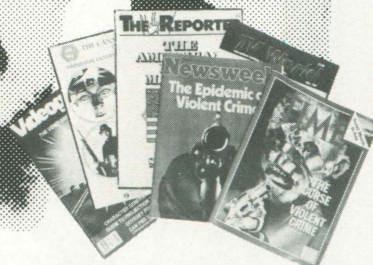


映画史上 未曾有のドキュメントがやってくる!





この恐るべき《もうひとつのアメリカ》を世界はまた何も知らない!



誇らしげになびく星条旗には、いつも弾痕と流血がしみついている!

いま、とてつもないドキュメントが生まれた。全世界を震撼せしめる巨大な衝撃が音をたてて迫りくるのだ。「アメリカン・バイオレンス」——世界の大国アメリカに誰もが抱く夢と希望を、一瞬にして打ち砕いてしまう恐るべき《もうひとつのアメリカ》の姿が、いまあばかれようとしている。しかもこの現実を世界はまだ何も知らない……。

秒単位で窃盗が横行し、3分に一件の割合で殺人未遂が起こり、7分に1人の婦女子がレイプされ、20分に1人は殺されてゆくアメリカ。誰が…何のために…? 高度の文明が生んだ狂気と悲劇が今日も繰り返される。だが、その暴

力の生態をアメリカ人さえも気づいていない。全米50州に徹底取材3年、生々しい非公開フィルム延べ80万フィート。取材記者の動員延べ2300人。こうして《真実》のみが証言しうる決定的瞬間を完璧なまでに捉えた。

建国200年を経て、いまようやくアメリカの暴力の凄まじさが白日のもとにさらされようとしている。「アメリカン・バイオレンス」は、アメリカ人が隠されつつけていたアメリカの恥部をあばいた最初のドキュメントとして、全米で早くも大きな反響を呼んでいる。

一体、アメリカはどのようにして21世紀を迎えるのか!?

文明の末路か、アメリカの悲劇か——この《真実》に目をそむけてはいけない!

『アメリカで起きていることは、日本でも必ず起こる。』 **ライシャワー氏** (元・駐日アメリカ大使)

『毎週平均400人のアメリカ人が殺されている』『殺人事件の約3分の1は、理由なき殺人によるものである』『実際の危険よりも、いつ自分が犠牲者になるかもしれないという恐怖の方がずっと大きい』 **タイム誌** (81・3・23号)

■この企画は今まで誰も考えてもみなかったし、取りあげもしなかった。



——《F・コッポラ監督》
我々にとっては異常とさえ思える暴力の実情だが、アメリカ人にとっては余りにも日常的なゆえに誰も気づかなかったのだ。しかも、これまでのドキュメントが、局地戦争や未開文明国を扱っていたのに対し、これは最も文明の発達した国アメリカの悲劇と日常暴力を捉えた初めてのドキュメントである。

『凄じい映画である。そしてその凄じさの原因は、これがドキュメンタリー・フィルムであるというなまなましさにあるだろう。報道の使命は事実を伝えることだが、同時に非情なものだ。』 **猿谷 要氏** (東京女子大学教授)

2度と撮れない! 2度と見れない!
非公開フィルムの決定的瞬間!

延べ80万フィートに及ぶフィルムは、全米50州のあらゆる機関の協力と個人所有のものなど、門外不出の貴重なフィルムばかりである。歴史的な事件と歴史から抹殺された事件に至る決定的瞬間は、まさにアメリカの暗黒史だ。

徹底取材に全米のマスコミが全面協力!

〈テレビ〉ABC/NBC/CBS/USA ケーブルニュース・ネットワーク/ITN(インディペンデントTVニュース)
〈新聞〉ニューヨーク・タイムズ/ロサンゼルス・タイムズ/ワシントン・ポスト 〔雑誌〕タイム/ニューズウィーク 〔通信〕AP/UPI・TN(TVニュース)/ロイター 〔官公庁関係〕FBI(アメリカ連邦検察局)/LAPD(ロサンゼルス警察)/NYPD(ニューヨーク警察)/SWAT(特殊部隊) 〔その他〕全米カメラマン協会/ THE TA-TV(ロサンゼルス有線TV)/AP-RADIO PHOTO(写真ニュース)/UPI・SUN(写真ニュース)/ほか各州報道機関

アメリカン・バイオレンス
〈長編ドキュメント〉カラー作品 ● アメリカ映画 ● 東宝東和提供



■東京音協9月例会作品
共通特別ご観賞券1,000円(当日一般1,500円の処学生1,300円)
会員に限り発売中!

9/5(金)より
ロードショー

日比谷 **スカラ座**

新宿プラザ	新宿 武蔵野館	渋谷スカラ座
池袋劇場	川崎スカイ	横浜 東宝